

令和2年(2020年)3月23日

北海道教育委員会教育長 様

北海道松前高等学校長 印

次のとおり令和元年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

昨年度の学校評価の結果を踏まえ、次の推進事項を重点目標とし、すべての生徒達の自己実現を図る学校づくりを進める。

- 1 主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善に取り組み、指導法・評価方法の工夫を図る。
- 2 規律ある生活態度の定着と、自ら考え行動し、社会に主体的に貢献し、変化に対応できる力の育成を図る。
- 3 地域や小中学校と連携し、保護者・地域から信頼される、魅力ある学校づくりを図る。
- 4 「道立学校に係る部活動の方針」に則り、本校の部活動方針並びに各部の活動計画を作成し、「休養日の完全実施」を含め、生徒のバランスのとれた生活や心身の成長を図る、校内外の条件整備を推進する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	主体的・対話的で深い学びについては、教員個々の意識が向上し、積極的に取り組んでいる状況が窺える。指導と評価の一体化を推進し、単元配列表に基づいた教科横断の在り方等、実践事例を交流・共有しながらカリキュラム・マネジメントを進める必要がある。更に、積極的な授業交流を行い、授業改善を継続的に行う必要がある。	松前高校の様々な取り組みが功を奏し、学力が向上し、成績不振者が減少している事から「概ね適切である」という評価を得た。
改善方策	○主体的・対話的で深い学びの実現に向けての授業改善等は教員個々の意識が向上し実践できているが、一層の充実を図るために「年間指導計画は活用されているか」「目標の適切さは担保されているか」等の確実な検証を行う。 ○指導と評価の一体化を推進するために、活用できる年間指導計画・評価計画、単元の評価と指導計画を作成し、評価の妥当性、信頼性を高め、指導改善に資する真正の評価を実施する。	
生徒指導	教育相談の充実が生徒理解に繋がり、より良い人間関係及び生徒事故の未然防止に繋がっている。 生徒の主体性及び自主性を一層高めるため、生徒会活動の一層の充実が必要となっている。更に、教員が生徒の自主性を引き出すための工夫改善が求められる。	生徒会の生徒が桜祭りの観光案内ボランティアに取り組んだ事や社会福祉協議会との連携により、独居老人宅のクリスマスボランティアの取り組みは高評価を得ていることから「概ね適切である」という評価を得た。
改善方策	○生徒が自主的に動けるようにするために、教員側から意図的に働きかける。 ○生徒の自主性を損なわないように学校運営を行う事が重要であり、生徒会担当者と学級担任が情報の共有を通して連携し、生徒会活動を通して育成すべき資質・能力を明確にし、生徒の主体性を育むと共に自主的な活用を継続的に支援する。 ○生徒や保護者との良好な人間関係を構築し、信頼を根底にした指導の充実を図る。	
進路指導	個々の能力や適性、進路希望に対して早期から進路指導を継続的に推進してきた事が功を奏し、今年度も進路100%を達成できた。しかし、進路シラバスの活用方法やスタディサプリの有効利用等の点で改善が必要である。町からの支援により公務員対策や検定・資格補助金を頂いている事をPRし、生徒や保護者の意識改革に取り組む。	本年度の進路実績等を踏まえ、その成果を産んだ進路指導の充実により「概ね適切である」という評価を得た。
改善方策	○進学及び就職実績で一定の成果が表れているが、成果を導いた実践・要因を確実に検証する。 ○進路シラバス等をもとに、見通しをもった進路指導ができるよう各学年で行うべき事を明確化する。 ○スタディサプリはまだ活用しきれていない、特に進学者以外への対応が必要である。分掌、学年、各教科が連携、協働し、運用の改善、検証を行う。	
公表方法	Web ページ掲載	

3 添付資料

- (1) 令和元年度 年度末自己評価集計結果
- (2) 令和元年度 学校評価アンケート集計結果
- (3) 令和元年度 学校評価に係る学校関係者評価

令和元年度 学校評価に係る学校関係者評価

北海道松前高等学校

自己評価結果に対する学校関係者評価 【A：充分である B：概ね充分である C：不十分である D：改善を要する】

分類領域	評価項目	達成状況	取組の適切さ	改善の方策	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
学校経営	確かな学力を育成し、協働して課題を解決する能力を育み、主体的で深い学びを促進する。	B	B	○業務の棚卸しを実施し、選抜と集中を確実にし、部長主任会議等を通して、明確な方向性を出し、継続する。新たに実施する業務、止めるべき業務を明確にする。 ○時間外勤務縮減意識の昂揚を図り、業務遂行方法を改善し、時間外勤務の縮減を図る。 ○「学校力の向上」のため、「チーム松高」の構成員として、当事者意識を持ち、コミュニケーションの場を確実に構築しながら、相互信頼関係をベースに連携・協働を進める。 ○基礎的汎用能力が確実に育成されているか検証する。	B	B
	多くの体験活動を通して、基礎的汎用的能力の育成を図るキャリア教育を推進する。	B	B			
	北海道アクションプランの趣旨を理解し、効率的な学校運営に努め、時間外勤務の縮減を意識した働き方を促進する。	B	B			
	情報発信等を通して、家庭・地域社会との連携を深め、信頼される学校づくりを推進する。	B	B			
評価者の意見等	チームワークで組織の協働性・機動性、教員個々の指導力を高め、学校力向上を推進する。	B	B			
	○教職員の健康面（精神面も含め）個々に気をつけて頂きたい。○町内のお祭り等に出している食べ物等のアイデアを子ども達だけではなく、先生方のアイデアも集めて話し合ってみたらもっと良い物ができるのではないかと思います。					
	生徒の興味、関心、適性に応じ、多様な進路の実現を目指し、適切な教科・科目の履修ができる教育課程を編成する。	B	B	○「松前学」は全教職員が意義と目標を理解し、カリキュラム・マネジメントの観点から、一層の改善を図り、資質・能力の育成を確実に行う。 ○道徳教育の全体計画を意識し、各教科、HRでの指導の際に当事者意識を持って行う。 ○新学習指導要領の実施に向け、学校教育目標、資質能力の育成を十分に理解し、責任と自覚を持って授業改善を行う。 ○単元配列表に基づいた教科横断の在り方等、実践事例を交流・共有しながらカリキュラムマネジメントを進める。	B	B
	学校設定科目「松前学」・総合的な学習の時間の系統的な学習ができる教育課程を編成する。	B	B			
基礎的汎用的能力を育成するキャリア教育の視点から体系的・系統的に学習のできる教育課程を編成する。	B	B				
教育活動全体を通して道徳教育及び人間としての在り方生き方に関する教育の充実を通して豊かな心を育てる教育課程を編成する。	B	B				
全教科と連携し、教育課程の検討を深化する。	B	B				
評価者の意見等						
学習指導	主体的・対話的で深い学びを実現する為に指導・評価方法の工夫・改善を図る。	B	B	○主体的・対話的で深い学びに向けての授業改善は教員個々の意識が向上し、実践できている。一層の改善に向けて、「年間指導計画は活用されているか」「目標の適切さは担保されているか」等、手段が目的とならないように確実に検証を行う。 ○指導と評価の一体化を推進するために、年間評価計画・単元の評価計画等の作成を確実にし、評価の妥当性・信頼性を担保するため、評価の検証を行う。	B	B
	授業規律の確立を図る。	B	B			
	教務内規の見直しを図る。	B	B			
	指導と評価の一体化、評価指導の年間計画、観点別学習状況の評価	B	B			
「朝の読書」を効果的に実施する。	B	B				
評価者の意見等						
生徒指導	予防的、開発的な教育相談を通して、生徒理解に努め、よりよい人間関係の育成を図り、生徒事故の未然防止に努める。	B	B	○生徒が自主的に動けるようにするため、教員側から意図的に働きかける。 ○生徒会活動を通して育成すべき資質・能力を明確にし、生徒の主体性を育むとともに自主的な活用を継続的に支援する。 ○生徒や保護者との良好な人間関係を構築し、信頼を根拠にした指導の充実を図る。	B	B
	校内・外において基本的な生活習慣の確立に努める。	B	B			
	環境美化に対する意識の向上を図り、自ら実践する態度を育成する。	B	B			
	自主的に健康管理できる人間の育成を図る。	B	B			
生徒一人一人が生徒会活動を理解し、自主的、積極的に活動できる環境作りと態度の育成を図る。	B	B				
評価者の意見等						
進路指導	早期からの就職・進学両方に対応する進路指導を推進する。	B	B	○進路実績で一定の効果が表れているが、成果を導いた実践・要因を確実に検証する必要がある。 ○進路シラバス等をもとに、見直しをもった進路指導ができるよう各学年で行うべき事を明確化する。 ○スタディサプリはまだ活用しきれていない。進学者以外への対応も必要である。また、分掌、学年、各教科との連携し、改善を充実させる。	B	B
	進路シラバスを活用し、3年間を見通したキャリア教育により、適切な進路選択と実現が達成できる進路指導を推進する。	B	B			
	個々の適性・能力・希望に応じた進路選択を指導する。	B	B			
	情報の効果的な収集・整理・提供を推進する。	B	B			
	学年、保護者との十分なコミュニケーションを形成する。	B	B			
スタディサプリ、模擬試験などを利用した進路指導を充実させる。	B	B				
評価者の意見等						
いじめの対応	松前高等学校「いじめ根絶宣言」を生徒に定着させ、学校として「いじめを許さない」姿勢を生徒に浸透させる。	B	B	○「いじめ根絶宣言」の毎年の見直し以外の生徒の主体的な取り組みの実現に向けて生徒自身が議論する場を設ける等の工夫をする。 ○「いじめを絶対に許さない」という基本理念の下、校内委員会の活性化、委員会と学年との連携、学校と外部機関との連携を充実させる。	B	B
	いじめ防止基本方針に則り、日頃から生徒の様子に注意を払い、生徒情報を共有し、その情報に応じて組織的かつ柔軟に対応する。	B	B			
	重大事態が発生した場合には、速やかに北海道教育委員会を通じ北海道知事へ報告し、北海道教育委員会と協議のもと対処する。	B	B			
	いじめを発見した時には、速やかに対応し、是々非々の姿勢で指導する。	B	B			
評価者の意見等						
地域関係連携	地域の人材や施設を活用した教育活動の充実を図る。	B	B	○地域の行事について理解を深め、生徒の成長に繋がる活動を促進する。 ○松前学園との連携を深める取り組みを積極的に探る。 ○学校運営協議会の設置に向けて地域との連携・協働を更に進める。 ○社会福祉協議会と連携して、生徒会を中心にボランティア活動の充実を進める。 ○地域社会の継続・維持に貢献する取り組みを更に充実させる。 ○本校の実践について、地域への周知の徹底を図るため、広報を一層工夫、充実する。	B	B
	P T A 活動の充実を図る。	B	B			
	地域行事やボランティア活動に生徒と教職員が主体的・積極的に参加交流する。	B	B			
	小中一貫「松前学園」との連携を推進する。	B	B			
学校通信やホームページ、学校案内、学校広報ポスターの内容を更に充実させる。	B	B				
評価者の意見等	J					
教員研修	資質能力を高める公開授業と研修を推進する。	B	B	○教科指導力及び生徒理解力の向上に向けて、校内研修を充実する。 ○個人が受講した外部研修の成果を校内に還元し、改善に役立てる。 ○公開授業週間・研究授業の在り方の改善を図る。	B	B
	小中学校との学びの連続性の維持により授業力を向上させる。	B	B			
評価者の意見等						

令和元年度 学校評価（期末自己評価） 集計結果

北海道松前高等学校

◇本校の教育活動について、次の項目ごとに評価をお願いします。

【評価】A(4)～充分である B(3)～概ね十分である C(2)～不十分である D(1)～改善を要する (*評価C・Dの場合、改善の方策を記入してください)

* () 内の数値で計算し、A=3.5～4.0、B=2.5～3.4、C=1.5～2.4、D=1.0～1.4 で評価する。

領域	No.	評価項目	達成状況								取組の適切さ									
			中間	評年次	評年次	評年次	A	B	C	D	空欄	中間	評年次	評年次	評年次	A	B	C	D	空欄
学校経営	1	確かな学力を育成し、協働して課題を解決する能力を育み、主体的で深い学びを促進する。	B (3.1)	3.2	3.2	3.0	1	13	0	0	0	B (3.1)	3.2	3.2	3.2	1	12	0	0	1
	2	多くの体験活動を通して、基礎的、汎用的能力の育成を図るキャリア教育を推進する。	B (3.3)	3.5	3.5	3.3	4	10	0	0	0	B (3.2)	3.5	3.5	3.4	3	10	0	0	1
	3	北海道アクションプランの趣旨を理解し、効率的な学校運営に努め、時間外勤務の縮減を意識した働き方を促進する。	B (2.6)	新規	新規	新規	0	10	2	2	0	B (2.5)	新規	新規	新規	0	9	2	2	1
	4	情報発信等を通して、家庭・地域社会との連携を深め、信頼される学校づくりを推進する。	B (3.2)	3.1	3.1	3.1	3	11	0	0	0	B (3.3)	3.2	3.2	3.1	4	9	0	0	1
	5	チームワークで組織の協働性・機動性、教員個々の指導力を高め、学校力向上を推進する。	B (2.6)	2.8	2.8	3.0	0	8	6	0	0	B (2.5)	2.9	2.9	2.9	0	7	6	0	1
教育課程	1	生徒の興味、関心、適性に応じ、多様な進路の実現を目指し、適切な教科・科目の履修ができる教育課程を編成する。	B (3.0)	3.3	3.3	3.2	0	11	0	0	3	B (3.0)	3.3	3.3	3.2	0	11	0	0	3
	2	学校設定科目「松前学」・総合的な学習（探究）の時間の系統的な学習ができる教育課程を編成する。	B (3.1)	3.1	3.1	3.2	2	8	1	0	3	B (3.1)	2.9	2.9	3.2	2	8	1	0	3
	3	基礎的汎用的能力を育成するキャリア教育の観点から体系的・系統的に学習できる教育課程を編成する。	B (3.2)	3.3	3.3	3.2	2	9	0	0	3	B (3.2)	3.3	3.3	3.2	2	9	0	0	3
	4	教育活動全体を通じた道徳教育及び人間としての在り方、生き方に関する教育の充実を通して豊かな心を育てる教育課程を編成する。	B (3.0)	3.0	3.2	3.2	1	9	1	0	3	B (3.0)	3.0	3.2	3.2	1	9	1	0	3
	5	全教科と連携し、教育課程の検討を深化する。	B (3.2)	3.2	3.2	3.2	0	9	2	0	3	B (3.3)	3.3	3.3	3.3	0	9	2	0	3
	6	資質能力の育成を目指し、カリキュラム・マネジメントの充実を図る。	B (3.1)	3.0	3.0	新規	1	10	0	0	3	B (3.2)	3.0	3.0	新規	2	9	0	0	3
学習指導	1	主体的・対話的で深い学びを実現するために、指導・評価方法の工夫・改善を図る。	B (3.0)	3.2	3.2	3.0	0	11	0	0	3	B (3.0)	3.2	3.2	3.1	0	11	0	0	3
	2	授業規律の確立を図る。	B (3.0)	3.1	3.1	3.1	0	11	0	0	3	B (3.0)	3.2	3.2	3.2	0	11	0	0	3
	3	教務内規の見直しを図る。	B (3.3)	3.3	3.3	3.0	3	8	0	0	3	B (3.3)	3.2	3.2	3.1	3	8	0	0	3
	4	指導と評価の一体化の推進を図る。（指導と評価、年間計画の作成、観点別学習状況評価の充実）	B (3.0)	3.2	3.2	3.0	0	11	0	0	3	B (3.1)	3.3	3.3	3.2	1	10	0	0	3
	5	「朝の読書と学習」を効果的に実施する。	B (3.3)	3.1	3.1	3.3	3	8	0	0	3	B (3.3)	3.1	3.1	3.4	3	8	0	0	3
生徒指導	1	予防的、開発的な教育相談を通して、生徒理解に努め、よりよい人間関係の育成を図り、生徒事故の未然防止に努める。	B (3.2)	3.0	3.0	3.2	2	9	0	0	3	B (3.3)	3.1	3.1	3.2	3	8	0	0	3
	2	校内・外において基本的な生活習慣の確立に努める。	B (3.2)	3.1	3.1	3.2	2	9	0	0	3	B (3.2)	3.2	3.2	3.2	2	9	0	0	3
	3	環境美化に対する意識の向上を図り、自ら実践する態度を育成する。	B (3.2)	3.3	3.3	3.4	2	9	0	0	3	B (3.2)	3.3	3.3	3.4	2	9	0	0	3
	4	自主的に健康管理できる人間の育成を図る。	B (3.0)	3.3	3.3	3.2	1	9	1	0	3	B (3.1)	3.3	3.3	3.2	1	10	0	0	3
	5	生徒一人一人が生徒会活動を理解し、自主的、積極的に活動できる環境作りと態度の育成を図る。	B (3.0)	2.9	2.9	3.0	1	9	1	0	3	B (3.2)	2.9	2.9	3.0	2	9	0	0	3
進路指導	1	早期からの就職・進学両方に対応する進路指導を推進する。	B (3.3)	3.3	3.3	3.3	3	8	0	0	3	B (3.3)	3.3	3.3	3.3	3	8	0	0	3
	2	進路シラバスを活用し、3年間を見通したキャリア教育により、適切な進路選択と進路実現が達成できる進路指導を推進する。	B (3.1)	2.9	2.9	3.3	1	10	0	0	3	B (3.1)	2.9	2.9	3.3	1	10	0	0	3
	3	個々の適性・能力・希望に応じた進路選択を指導する。	B (3.3)	3.2	3.2	3.4	3	8	0	0	3	B (3.3)	3.1	3.1	3.4	3	8	0	0	3
	4	情報の効果的な収集・整理・提供を推進する。	B (3.1)	3.1	3.1	3.2	1	10	0	0	3	B (3.1)	3.2	3.2	3.3	1	10	0	0	3
	5	学年、保護者との十分なコミュニケーションを形成する。	B (3.1)	3.1	3.1	3.1	1	10	0	0	3	B (3.1)	3.1	3.1	3.0	1	10	0	0	3
	6	スタディサプリ、模擬試験などを利用した進路指導を充実させる。	B (3.3)	3.0	3.0	3.1	3	8	0	0	3	B (3.3)	3.0	3.0	3.1	3	8	0	0	3
いじめの対応	1	松前高等学校「いじめ根絶宣言」を生徒に定着させ、学校として「いじめを許さない」姿勢を生徒に浸透させる。	B (3.1)	3.2	3.2	3.3	1	10	0	0	3	B (3.1)	3.2	3.2	3.3	1	10	0	0	3
	2	いじめ防止基本方針に則り、日頃から生徒の様子に注意を払い、生徒情報を共有し、その情報に応じて組織的かつ柔軟に対応する。	B (3.2)	3.3	3.3	3.4	2	9	0	0	3	B (3.2)	3.3	3.3	3.5	2	9	0	0	3
	3	重大事態が発生した場合には、速やかに北海道教育委員会を通じ北海道知事へ報告し、北海道教育委員会と協議のもと対処する。	B (3.2)	3.3	3.3	3.4	2	9	0	0	3	B (3.2)	3.3	3.3	3.4	2	9	0	0	3
	4	いじめを発見した時には、速やかに対応し、是々非々の姿勢で指導する。	B (3.1)	3.2	3.2	3.5	1	10	0	0	3	B (3.1)	3.2	3.2	3.5	1	10	0	0	3
地域連携 情報発信	1	地域の人材や施設を活用した教育活動の充実を図る。	B (3.3)	3.4	3.4	3.6	4	10	0	0	0	B (3.3)	3.4	3.4	3.6	4	9	0	0	1
	2	P T A活動の充実を図る。	B (3.3)	3.3	3.4	3.3	4	10	0	0	0	B (3.3)	3.3	3.4	3.3	4	9	0	0	1
	3	地域行事やボランティア活動に生徒と教職員が主体的・積極的に参加交流する。	B (3.1)	3.2	3.2	3.2	2	11	1	0	0	B (3.1)	3.2	3.2	3.3	2	10	1	0	1
	4	小中一貫「松前学園」との連携を推進する。	B (2.8)	2.7	2.7	2.7	1	9	4	0	0	B (2.8)	2.7	2.7	2.7	1	8	4	0	1
	5	学校通信やホームページ、学校案内、学校広報ポスターの内容を更に充実させる。	B (3.2)	3.2	3.2	3.3	3	11	0	0	0	B (3.2)	3.2	3.2	3.8	3	10	0	0	1
教員研修	1	資質能力を高める公開授業と研修を推進する。	B (3.2)	3.2	3.2	3.2	2	10	0	0	2	B (3.1)	3.2	3.2	3.3	1	11	0	0	2
	2	小中学校との学びの連続性の維持により授業力を向上させる。	B (2.8)	3.0	3.0	3.0	1	7	4	0	2	B (2.8)	3.0	3.0	3.1	1	7	4	0	2

14枚提出

令和元年度 学校評価アンケート【地域・保護者・生徒】

◇本校の教育活動について、次の項目ごとに評価をお願いします。

[評価] A～できている B～ある程度できている C～どちらともいえない D～ややできていない E～不十分である /～わからない
A:5 B:4 C:3 D:2 E:1 /:計算に加えない

平均 A:4.5~B:3.5~C:2.5~D:1.5~E:~1.4

No.	評価項目	地域 (昨年度)		保護者 (昨年度)		生徒 (昨年度)	
		平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
1	全ての教育活動を通してこれからの社会で求められる資質・能力(主体性、協働性、思考力、判断力、表現力など)を育む教育が展開されている。	B 4.2	(4.0)	B 4.1	(4.1)	B 4.3	(4.3)
2	体験的、主体的な活動を通して、キャリア教育が推進されている。	B 4.4	(4.2)	B 4.1	(4.1)	B 4.2	(4.4)
3	情報発信等を通して、家庭・地域社会との連携を深め、信頼される学校づくりが推進されている。	B 4.4	(4.3)	B 4.0	(4.0)	B 4.2	(4.3)
4	生徒の興味、関心、適性に応じ、多様な進路の実現を目指した教育活動がされている。	B 4.3	(4.3)	B 4.1	(4.1)	B 4.3	(4.3)
5	学校設定科目「松前学」・総合的な学習の時間を通してふるさとに誇りを持たせる教育活動が実践されている。	B 4.4	(4.5)	B 4.2	(4.4)	B 4.4	(4.5)
6	社会生活において必要な資質、能力を育む教育活動が行われている。	B 4.2	(4.1)	B 4.0	(4.1)	B 4.3	(4.3)
7	豊かな心を育成する教育の充実が図られている。	B 4.0	(3.9)	B 4.0	(3.9)	B 4.1	(4.3)
8	主体的・対話的で深い学びの実現のために指導方法・評価方法の工夫・改善が図られている。	B 3.8	(4.0)	B 3.8	(3.8)	B 4.2	(4.2)
9	授業規律が保たれている。	B 3.8	(4.4)	B 4.0	(3.9)	B 4.1	(4.2)
10	シラバスが提示され、シラバスに則って学習活動がなされている。	B 4.2	(4.3)	B 4.1	(4.1)	B 4.4	(4.2)
11	生徒による授業評価を踏まえた授業改善により、分かる授業が展開されている。	C 3.4	(4.0)	B 3.9	(3.8)	B 4.1	(4.1)
12	教育相談等を通して生徒理解に努め、より良い人間関係の育成に努めている。	B 4.0	(4.3)	B 3.9	(4.0)	B 4.2	(4.2)
13	校内・外において基本的な生活習慣の確立に努めている。	B 4.3	(4.0)	B 4.0	(4.1)	B 4.2	(4.2)
14	環境美化に対する意識の向上を図り、自ら実践する態度が育成されている。	B 4.4	(4.0)	B 4.0	(4.1)	B 4.1	(4.2)
15	自主的に健康管理ができる人間の育成が図られている。	B 3.8	(3.8)	B 4.0	(4.2)	B 4.2	(4.2)
16	生徒一人一人が生徒会活動を理解し、自主的に積極的に活動できる環境作りと態度の育成が図られている。	B 3.8	(3.9)	B 4.1	(4.0)	B 4.2	(4.2)
17	早期からの就職・進学両方に対応する進路指導の推進が図られている。	A 4.7	(4.4)	B 4.2	(4.2)	B 4.3	(4.4)
18	進路シラバスを活用し、3年間を見通したキャリア教育により、適切な進路選択と進路実現が達成できる進路指導が行われている。	B 4.3	(4.2)	B 4.1	(4.1)	B 4.3	(4.3)
19	個々の適性・能力・希望に応じた進路選択が可能となる指導が行われている。	B 4.3	(4.1)	B 4.1	(4.1)	B 4.3	(4.4)
20	進路に関する情報が効果的に適格に提供されている。	A 4.5	(4.2)	B 4.2	(4.1)	B 4.4	(4.4)
21	スタディサプリ、模擬試験などを利用した進学指導が充実している。	A 4.5	(4.4)	B 4.3	(4.3)	B 4.3	(4.5)
22	家庭との連携において、保護者と十分なコミュニケーションが形成されている。	B 3.5	(3.9)	B 3.9	(3.9)	B 4.2	(4.2)
23	松前高等学校「いじめ根絶宣言」を生徒に定着させ、学校として「いじめを許さない」姿勢を生徒に浸透させている。	B 3.8	(4.1)	B 3.9	(4.1)	B 4.0	(4.2)
24	日頃から生徒の様子に注意を払い、いじめを見逃さないように努めている。	B 3.8	(4.2)	B 3.7	(4.0)	B 4.1	(4.2)
25	いじめを発見したときには、速やかに毅然とした指導で対応している。	B 4.2	(3.9)	B 3.7	(3.9)	B 4.1	(4.2)
26	地域の人材や施設を活用した教育活動の充実が図られている。	B 4.2	(4.6)	B 4.1	(4.2)	B 4.3	(4.3)
27	PTA活動の充実が図られている。(地域・保護者のみ)	B 4.0	(4.0)	B 4.1	(4.1)		
28	地域行事やボランティア活動に生徒と教職員が主体的・積極的に参加交流している。	A 4.5	(4.3)	B 4.2	(4.2)	B 4.3	(4.3)
29	町内の小・中学校との連携の推進が図られている。	B 4.2	(4.1)	B 4.1	(4.0)	B 4.1	(4.2)
30	学校通信やホームページ、学校案内、学校広報ポスターの内容は充実している。	B 4.2	(4.4)	B 4.0	(4.0)	B 4.0	(4.1)
31	松前高校に入学させて良かった。松前高校に入学して良かった。(生徒・保護者のみ)			B 4.3	(4.3)	B 4.3	(4.2)

4.1 (4.2) 4.0 (4.1) 4.2 (4.3)

回収率 16.0 % 91.3 % 85.5 %

送付数	25	69	69
回収数	4	63	59

E
1.5 D
2.5 C
3.5 B
4.5 A